

12月のことば

生活の見通し⑤ (言葉② 音質)
～自主性を育む～

<ことばの内容・方位>

最近12月になると、街中にイルミネーションが飾られるようになりました。クリスマスに何を言うか？ 年賀状に一筆何を書くか？ 気の利いた言葉の内容を考えさせられます。

言葉は生活の見通しを分らせる上でタイミングよく一寸掛けると、子ども(人)の自主性を育む上で良い補助となります。しかし、強制的な内容の言葉や、無神経に人の集中(力)空間を分断する大声は、些細に芽生えた自主性を壊し、生活の見通しのない指示待ちの人間を作ります。

以上の事より、言葉は「その場に応じた適度な大きさと内容で、人に手渡すごとく伝える」のが良いと思われま

————— * ————— * —————

<音の質>

しかし、それだけではありません。言葉は、音の質も大切です。巷のクリスマスの歌唱指導で、まず求められるのは地声に
あらず“頭声”。

- ・頭声とは…頭蓋骨を響かして出す声で、頭上から出したり又はハミングする如く…
峰不二子やバカボンのママの如く艶っぽく聞こえて、“愛”を感じる声で…
(⇒やる気・自主性を育む)
- ・地声とは…喉から出して、戦争映画の悪者やドラえもんのスネ男の如く…
“命令を感じる”“感性のない”声…
(⇒指示待ち、無目的人間、自習が出来ない子へ)

…と言うと誰しも、子育てこそ頭声で！と思います。

しかし、実際にその頭声が使われるのは、人に頼み事や、悩みを相談する時、あるいは恋愛の際等に限られて、肝心の子育てや教育の場で地声(～大声)が使われているのではないかと危惧するのです。

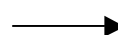
————— * ————— * —————

<愛の効果>

愛を感じさせる音質の言葉は、人にやる気を起こさせ、自主性を育みます。言葉は毎日かけられるもので、愛を感じる言葉がけと命令とを感じる言葉では、人づくりへの影響は大。そして一年の差は歴然。イルミネーションの月。“愛”を感じさせる言葉で、大人も子どもも、自主性・やる気を育みましょう。

知識
技術

正しい心



この土台が崩れては
なりません。